

C-36 婦人服原型設計のための基礎的研究 —上半身の形態について—
青山学院大 短大 磯谷藤枝 都立大 川短大 原田陽子 ○吉沢厚子

目的 前回にひきつづき適合度の高い胸部原型を設定することを目的として、詳細な身体計測結果を用い、今回は着用実験を通して経験している前丈と後丈、チエストラインにおける前後の幅などの関係から上半身の形態を把握し、それらより体型分類を試みた。

方法 資料は18～20才の女子学生177名で、検討を加えた項目は、丈関係では背丈を基準とした前中心丈・胸部前丈・胸部後丈、幅関係では背肩幅を基準とした背幅・胸幅の比率の5項目などである。これらのうち、前中心丈/背丈を用い後丈の長い体型(A)と短い体型(B)、胸幅/背肩幅を用い胸幅の広い体型(a)とせまい体型(b)にそれぞれ平均値を基準として分類し、それぞれの体型の特徴および丈関係(A・B)と幅関係(a・b)を組合わせた体型について検討を加えた。

結果 (1) 前中心丈/背丈で分類した場合、A体型は頸椎高と頸窩高および前胸高と後胸高の差が比較的小さく、胸部前丈および胸部後丈の背丈に対する比率は胸部前丈が小さく、胸部後丈は小さい。

(2) 胸幅/背肩幅で分類した場合、a体型は背幅と胸幅の差が小さく腕付けが体側面のほぼ中央に位置しているものが多いようである。

(3) 丈関係(A・B)と幅関係(a・b)を組合わせた体型の出現率は、Aaは約40%、Ab・Ba・Bbはそれぞれ約20%であった。